2011年度 人文学部公開講演会

がんばろう日本！

いま日本を知る意義！
邪馬台国の奴国の謎に迫る

第1部 基調講演（13:30～14:30）
「邪馬台国と奴国を語る」

講師：九州大学名誉教授・伊都国歴史博物館名誉館長・元日本考古学協会会長　**西谷 正**

第2部 パネルディスカッション（14:40～16:00）
「邪馬台国論争の中の『奴国』を考える」

出演者プロフィール

西谷 正　九州大学名誉教授

西谷正、1938年大阪府生まれ、京都大学大学院修士課程修了、名誉文学博士。九州大学名誉教授、現在九州歴史資料館館長。主要研究は東アジアにおける地域間交流史と古代国家形成史の研究。主著には『『魏志』倭人伝の考古学―邪馬台国への道―』（学生社2009年）、『古代北東アジアの中の日本』（梓書院2010年）などがある。

吉田 修作　福岡女学院大学人文学部長

東京都出身。福岡女学院大学人文学部教授・学部長。慶応義塾大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程修了。文学博士。専門は日本古代文学・民俗学。福岡県文化財調査研究委員会委員。小郡市文化財保護審議会委員。筑前町文化財保護審議会委員長。主な著書に『ことばの呪性と生成―混沌からの声―』（おうふう、1996年）、『文芸伝承論―伝承の<をとこ>と<をとめ>―』（おうふう、1998年）、『憑（よ）り来ることばと伝承―託宣・神功皇后・地域―』（おうふう、2008年）などがある。

片岡 宏二　福岡女学院大学人文学部非常勤講師

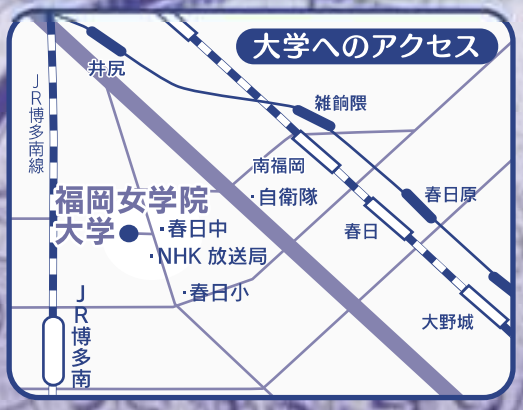
福岡県出身。早稲田大学第1文学部卒業。現職小郡市埋蔵文化財調査センター所長、福岡女学院大学人文学部非常勤講師。専門は日本考古学で特に弥生時代の渡来人問題。文学博士（考古学）。主な著書は「弥生時代渡来人と土器・青銅器」（雄山閣）など、北部九州邪馬台国説を見直して「九州邪馬台国論の新視点」（仮題）を出版予定。最近は考古学の社会貢献に意欲を持ち、出土遺物修復技術を活かした震災地の「思い出の品修復プロジェクト」を展開。

中村 俊介　朝日新聞社

1965年、熊本市生まれ。早稲田大学教育学部地理歴史専修卒（中央アジア史・西域史専攻）。朝日新聞社に入社し、新潟支局、西部本社社会部、同学芸部、東京本社文化部（旧・学芸部）などで考古学・歴史、文化財、世界遺産などを担当。現在、西部本社編集委員。日本考古学協会会員。
単著に『古代学最前線』（海鳥社、1998年）、『文化財報道と新聞記者』（吉川弘文館、2004年）、『世界遺産が消えてゆく』（千倉書房、2006年）。共著に『邪馬台国への道』（不知火書房、1995年）。論文に「考古学ジャーナリズムの功罪――複数の事例をもとにしたメディアからの文化財報道試論」『比較考古学の新地平』（同成社、2010年）など。

加地 良光　TVQ元アナウンス部長

1964年生まれ。東京出身。埼玉大学卒業後、NBC長崎放送、TVQ九州放送でアナウンス部長・報道部長など。在住小郡市では、09年大原合戦650年イベントコーディネート。現在、高松凌雲顕彰会理事も。



JR南福岡駅より西鉄バス 45番
西鉄井尻駅より西鉄バス 45番をご利用ください